

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
高齢者理学療法学		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
三科 貴博	D317	t-mishina	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	高齢化に伴う社会的・身体的・精神的変化の特徴について遠隔授業による講義および動画を通して理解し、その後、フィードバックとメディアを利用したグループワーク等の意見交換を行い、高齢者が罹患し易い疾患とそれに対する理学療法の理解を深める。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	模擬症例に対するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等を活発に行うために、指定された授業範囲の予習しておくことが望ましい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	特になし。				
外部教材	健康づくりのための運動と栄養摂取の実践 立命館大学 藤田聡 他, JMOOC (予定)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	加齢に伴う社会的および生理的变化に関する知識を習得し、説明することができる。			HSU(1)、PT(1)~(3)	
②	高齢者に多い疾患とそれらに対する理学療法評価・介入方法を習得し、模擬症例に関して必要な評価・治療を説明することができる。			HSU(1)、PT(1)~(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	加齢に伴う社会的変化について学習する。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	加齢による社会的変化について復習する。	4	
2	加齢に伴う身体的変化、虚弱に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	フレイルの評価や定義を中心に講義内容を復習する。	4	
3	加齢に伴う精神的変化および精神症状(認知症やうつなど)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習しディスカッションする。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	認知症の評価を中心に講義内容を復習する。予習として、慢性閉塞性肺疾患の病態を確認しておく。	4	
4	高齢者に多い内科疾患(誤嚥性肺炎や慢性閉塞性肺疾患など)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価及び実際行った介入を紹介する。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	嚥下の評価や呼吸機能の評価を中心に講義内容を復習する。予習として、大腿骨頸部骨折との病態を確認しておく。	4	
5	高齢者に多い運動器疾患(主に大腿骨頸部および転子部骨折や変形性関節症など)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価及び実際行った介入を紹介しディスカッションする。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	下肢の骨折およびその手術法を中心に講義内容を復習する。予習として、脳卒中やパーキンソン病の病態を確認しておく。	4	
6	高齢者に多い神経疾患(脳卒中やパーキンソン病など)に対する理学療法評価および理学療法介入について学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価及び実際行った介入を紹介する。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	神経疾患の評価や運動療法について講義内容を復習する。	4	
7	高齢者のターミナルケアについて学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価及び実際行った介入を紹介しディスカッションする。意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	障害の受容やターミナル期のQOLの在り方を復習する。	4	
8	これまでの学習の総括意見交換の機会:授業時間内に実施。	同時双方向型授業	第1~7回の講義内容を復習する。	2	
試	成績評価 到達度評価・評価のポイント参照				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		60	20	20	0	0	
総合 力 指 標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義で使用した配布資料や教科書をもとに、理解度を問う定期試験を行い評価する（筆記試験、60点満点）。問題形式は選択式とする。				必要に応じて試験の解答を提示し、解説をする。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	第2・3回において、提示された症例に対する問題点を考え、適切な環境整備、評価・介入を考察し、それぞれレポートとして提出する。レポートは20点満点で、思考力・表現力・問題解決能力を評価する。				ループリックによるレポートの採点結果を提示し、フィードバックする。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	第5・6回にグループワーク、ディスカッション、発表を行い、主体的に取り組み、発言し、コミュニケーションをとっているかを20点満点で採点する。				
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員							
教員の実務経験	理学療法士として医療機関及び介護保険関連施設にて 9 年間の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	理学療法士として医療機関及び介護保険関連施設で勤務経験を有する教員が高齢者の理学療法に関する評価から治療、環境整の流れに関する基本知識と技能を教授する。						
そ の 他	同時双方向型授業では Teams を使用予定で、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推する。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により再度シラバスの変更が生じる可能性がある。						